

チーム名：灘山ゼミ2年



発展途上国の女性が働ける未来へ

経済学部 現代ビジネス学科 2年
渡邊真子 大山さくら 中野百音 永松美波

【対象とするSDGs目標】



【対象課題】

発展途上国ではインフラの未整備、貧困、人権問題、環境汚染といった様々な社会問題が存在する。しかし、それらに向き合い事業を展開する社会的起業家 (Social Entrepreneurs) が不足している。これは教育を十分に受けられていないことが要因として考えられる。特に発展途上国では、女性の教育や社会進出の遅れが顕著であり、女性を対象とした社会的起業家の育成が課題となっている。

【課題解決の提案】

神奈川大学が発展途上国の女性を対象とした「留学プログラム」を展開する。そこで質の良い教育を提供し、社会問題と向き合う社会的起業家を育成する。さらに在學生や日本企業がこれに参加/支援することで相互に成長を期待することができる。

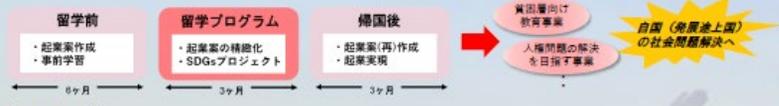
～留学プログラム (女性の社会的起業家育成) の仕組み～

■プログラムの目的

本プログラムは、発展途上国の女性が母国の社会問題解決を目指した社会的起業に必要な力を養うことを目的とする。また、これを通して発展途上国の女性の社会進出を促進させる狙いがある。

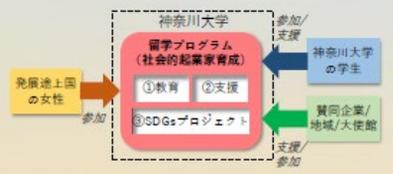
■プログラムの流れ

本プログラムは1年を通し行われる。参加する留學生(途上国女性)は、留学前に母国で事前学習・起業計画をサポートのもと行う。3か月間の留学では、神奈川大学で教育やプロジェクト活動に取り組む。また在學生や賛同企業/地域と交流し日本の文化、生活を学ぶ(下図参照)。帰国後、学んだことを持ち帰り社会的起業を実現させる。



■プログラムの機能

神奈川大学が発展途上国から5～10名程度の新規留學生および15～20名程度の在學生を採択し、以下を提供する。



※期間は短期滞在ビザの適応を想定し、90日程度を考慮しています。
※運営費は在學生のプログラム参加費および賛同企業からの支援金にて賄います。
※本プログラムの仕組みを検討するにあたり、私自身も参加を想定するとともに、実効性を考慮すべく神奈川大学国際センターにインタビューを行いました。

- ①教育
大学教員 (及び外部講師) が社会的起業に関連した教育を英語で提供する。在學生も参加。(例:ベンチャービジネス、ビジネスモデル、CSRなど) さらに日本の社会的起業家による講演も含む。
- ②支援
-奨学金: 渡航費および生活費を提供
-住居: 留學生向けの学生寮を無償で提供
-教育/生活支援: 在學生による学生センターを設置し、生活を支援
- ③SDGsプロジェクト
留學生と在學生および賛同企業でプロジェクトを設置し、出身国の抱える社会問題解決に向けた起業計画のブラッシュアップを図る。また、日本のベンチャーキャピタル等への打診も検討。

【期待される効果】

- 発展途上国の女性: プログラムで得た知識をもとに社会的起業を実現させることができる!
- 神奈川大学の学生: 社会問題や社会的起業につき理解を深めることができる!
英語力および国際感覚を身に付けることができる!
- 賛同企業: 発展途上国での社会問題解決に貢献する!
新たな視点で自社の発展途上国への展開を検討する機会となる!
- 地域(横浜市): SDGsの取り組みや発展途上国の現状を知り、異文化交流の場を定益できる!

【SDGs目標達成への貢献】

- ✓女性が社会的起業家になり、活躍することでジェンダー平等への貢献が見込める (SDGs目標5)
- ✓教育の受けられない人々が日本の質の良い教育を受けられる (SDGs目標4)
- ✓国境を越えた社会問題に一人ひとりが向き合い連携して行動できる (SDGs目標17)

①プログラムを通し社会的起業家になった女性達に本プログラムでのサポートをすることで、将来的に継続して質の良い教育を提供していく

【デザインコンセプト】

発展途上国ではジェンダー不平等や教育格差により、社会問題解決に向き合う女性の社会的起業家が不足している。この課題解決に向け、神奈川大学をプラットフォームとした留学プログラム (女性の社会的起業家育成) の創成を提案する。本プログラムのなかで在學生や賛同企業、地域が連携して発展途上国の女性起業家をサポートすることで、SDGs目標に貢献するとともに、参加者がそれぞれに価値を享受できる取り組みである。

チーム名：コオロギケーキで世界を救う



2030年、
世界はコロナ禍と急激な
人口増加に耐えきれず、
まともな食事にありつけない
人の数は億6000万人
に達しようとしていた。

世界の食料安全確保と栄養の現状 (2021年時点)

そして、
人々は希望を
求めた……
そう、
彼に……

えんどう豆は牛の 7 分の 1
二酸化炭素の排出量は
28 分の 1
そのうえ…

Cricket!!

牛 3 倍のタンパク質

yummy!!

OMG!

みんなも積極的に
コオロギを
食べてみよう!
アマゾン等で
買えるせ!!

YouTube にて
「コオロギケーキ」の作り方
を公開中!!
下の QR コードから飛べる
ぜ! ぜひみんなも作って
みてくれ!

コオロギケーキの作り方

【デザインコンセプト】

「コオロギを食べる」と聞くと、皆さんは何を考えますか？ 私たちは世界の飢餓の問題を解決するため、普段の食事にコオロギが取り入れられるよう、コオロギを使った料理を作ってみました。そしてコオロギへの嫌悪感を払しょくするため、アメコミ風のポップなポスターに仕上げました。環境負荷の高い畜産物をコオロギで代替することで、飢餓や環境問題にコミットできます。ぜひコオロギケーキを作ってみてください！

チーム名：エージェントグループ



参加型災害時脱出 VR ゲームによる 「助ける・助けてもらう」まちづくりを推進

背景（研究活動）

- (1) 「インクルーシブデザイン」の「リードユーザ」となる災害弱者をデザインプロセスに組み入れたシミュレーション基盤
- (2) 不特定多数の人々が集まっている空間での災害状況での避難行動の自動分析
- (3) 超高齢社会の中でのこれからの社会を支えていく若者の災害に対する意識の向上方法

SDGs (11 住み続けられるまちづくりを) との関連（発信活動）

- 災害時脱出ゲームという新たな手段
 - 若者が興味を抱くゲームを通して災害に対する意識を高める
 - 実験室実験や避難訓練等では明らかにできない、様々な人々の集団行動をもとに、「災害弱者」を助けるアイデアを募集する



行政・企業・市民が参加するシミュレーション基盤のなかで、「助ける・助けてもらう」というまちづくりを目指すことが可能

工学部計算知能システム研究室 安達、齋藤、藤原、三川（指導教員 秋吉 政徳）

【デザインコンセプト】

「災害時の安全・安心の分析のためのシミュレーション基盤」の研究活動に携わっている中で、超高齢社会の中で「助ける・助けてもらう」ということが大切だと感じました。特に、社会を支えていく若者の意識向上やアイデアをみんなで共有するための仕組みが必要で、参加型災害時脱出VRゲームの着想を得ました。

チーム名：神奈川大学宇宙ロケット部



神奈川大学宇宙ロケット部

ハイブリッドロケット高度日本記録更新!!

概要

- 有害なガスを発生せず、環境にやさしく、かつ爆発の恐れがないハイブリッドロケット。2014年から開発を続け、2018年まで毎年打ち上げに取り組んできました。
- 2019年には高度日本記録更新のためのエンジンを開発したものの、相次ぐ破裂で打ち上げ断念。
- 2020年はコロナで実験がほとんどできず、さらに断念。
- 2021年ついに開発に成功し、長さ約4mの機体を打上!



エンジンが点火された瞬間！(左)と打ち上げ直後のロケット(右)

写真提供/道浦直人

結果

- 9月19日(日)午前6時 秋田県能代市で打ち上げに成功
- 到達高度約10.1km(10124m)を記録し、**日本一**を達成
- 機体の分離・パラシュート展開・GPS位置情報の送信及び機体の回収に失敗

12



14



15



SDGsの取り組み ～積極的に再利用と修理～



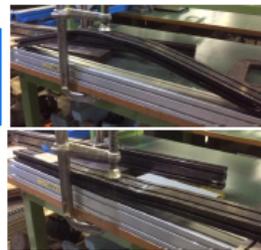
廃棄予定の10年前のPC20台をもらい、4個で1台にまとめ再生。



買ったばかりのPCが起動しなくなった。電源が原因のようなので修理。



分解した廃材で、ヘルメット入れ誕生



エンジン破裂で曲がったアルミフレーム(上)を曲げ戻して再利用(下)



燃焼試験で焼けたビデオカメラも修理し使用、ここまで備えてようやく廃棄

【デザインコンセプト】

神奈川大学宇宙ロケット部では、高野研究室と共同でハイブリッドロケットの研究・開発を行なっています。2021年に高度日本記録を更新しました。最終的な目標は、超小型衛星を軌道に投入できる専用のロケットを開発することです。これによって例えば、特定の地域の農作物の生育状況の確認など、ピンポイントで見たいニーズに対応できます。またロケット部では地道な技術向上のためにも、道具や機材の修理を積極的に行なっています。